

不調・不落が大幅増

上半期154件 一般土木で突出

道建設部は、2013年度上半期（4―9月）に入札した工事1563件のうち9・9%に当たる154件が、応札者がいない不調や入札価格が折り合わないための不落だったことを明らかにした。前年度同期の43件を大きく上回っている。工種別には、一般土木が127件と突出して多く、建築が20件で続く。同部は、技術者・技能者の不足や資材などの調達困難に加え、維持補修系の工事が敬遠されたことが要因と分析。下出生建設部長らは、これらの工事に参加要件を緩和するなどして再入札するほか、施工時期に制約のある工事は可能な限り来年度に

繰り越す方針を示した。5日、13年度上半期の不調・不落発生状況を道議会建設委員会に報告。梅尾要一（自民党・道民会議）、梶谷大志（民主党・道民連合）、吉井透（公明党）の3氏が質問した。建設部が上半期に入札したのは1563件、設計額923億円で、前年度同期を68件、102億円それぞれ上回った。内訳は、建管分が1406件（3件増）で796億円（24億円増）、建築局分が157件（65件増）で127億円（78億円増）。

不調・不落の発生割合は、建管で札幌、小樽、帯広が10%を超えたほか、建築局が13・4%に上っている。工種別で一般土木、建築以外は、電気が3件、舗装、鋼橋上部、管、機械器具設置が各1件にとどまる。設計額別では、3億円以上が3件（発生割合9・1%）、1億円以上3億円未満が11件（4・6%）、7000万円以上1億円未満が7件（5・3%）、5000万円以上7000万円未満が4件（2・9%）、3000万円以上5000万円未満が21件（10・7%）、1000万円以上3000万円未満が52件（13・5%）、1000万円未満が

道建設部発注機関別2013年度上半期
工事入札不調・不落発生状況

	入札件数	不調		不落		合計	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
建管	1,406	89	6.3%	44	3.1%	133	9.5%
札幌	213	26	12.2%	20	9.4%	46	21.6%
小樽	117	13	11.1%	3	2.6%	16	13.7%
室蘭	149	4	2.7%	4	2.7%	8	5.4%
函館	158	7	4.4%	2	1.3%	9	5.7%
旭川	173	3	1.7%	2	1.2%	5	2.9%
留萌	87	5	5.7%	2	2.3%	7	8.0%
稚内	75	0	—	4	5.3%	4	5.3%
網走	188	10	5.3%	3	1.6%	13	6.9%
帯広	120	14	11.7%	3	2.5%	17	14.2%
釧路	126	7	5.6%	1	0.8%	8	6.3%
建築局	157	7	4.5%	14	8.9%	21	13.4%
計	1,563	96	6.1%	58	3.7%	154	9.9%
12年度上半期	1,495	17	1.1%	26	1.7%	43	2.9%

※不調は一般競争で応札者なし、在来型指名競争で応札者1者以下

※不落は全応札者の入札価格が予定価格を超過した場合など

56件（12・8%）。工種が細かく、工事箇所が点在している小規模な維持補修、専門工事業者の確保が困難な急傾斜地や地滑り対策、橋梁補修、施工時期が制約される河川や漁港などを業者が敬遠する傾向が見受けられた。地域間のばらつきについては「民間建築

需要が影響している（木島昇悦技術管理担当課長）という。これら不調・不落工事については、2件の工事を一括するなどの発注口ツトの大型化や、地域要件といった入札参加要件の緩和などを図って再入札した結果、10月31日までに56件が落札となった。